



アングリカン・コミュニオン・リーガル・アドバイザーズ・ネットワークの ACC 2023 への報告

教会の使命は、独自の規律構造を通じて実行され、多様な市民法制度によって統治される領域で行われる。あらゆる場所で、質の高い法的アドバイスが使命のあらゆる側面を促進する。

リーガル・アドバイザーズ・ネットワークは、ACC-12 での決議を受けて 2002 年に発足し、共通の教会法原則の声明を作成し、共通の法的問題を調査している。これにより 2008 年、「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」が作られた。

最近は一時的に停止になっており、2022 年の原則改定作業が、カーディフ法律・宗教センター、教会法協会、および ACO により共同で行われた。ACC 常任委員会に提出されたこの改訂プロセスの報告を下に添付する。

メンバーは、改訂された [Principles of Canon Law \(教会法の原則\)](#) をレビューすることが求められている。

今後

リーガル・アドバイザーズ・ネットワークの必要性はこれまで以上に高まっており、コミュニオンの各管区が、生じた法的問題について互いに助け合うのを支援している。原則の改訂に対するエネルギーと熱意は、ネットワークの刷新と私たちの一致の一面を賛美する機会を提供している。ACC-18 への我々の決議案はこの希望を反映したものであり、ACC-12 及び ACC-14 の決議に基づいたものである。

このアングリカン諮問評議会は

- カーディフ法律・宗教センター、教会法協会、および 2022 年の Lambeth Conference で発表された「原則」の 2022 年改訂版の作成に関わったすべての関係者に感謝する。
- 「2022 年アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」をすべての管区において研究することを薦める。

このアングリカン諮問評議会は

- アングリカン・リーガル・アドバイザー・ネットワークの刷新を歓迎する。
- ネットワークが「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」を研究するよう奨励する
- ネットワークに対し、共通の法的問題と、考えられる解決策を検討し、IASCUFO とアングリカン諮問評議会に報告書を提出するよう依頼する。

ここに謹んで提出いたします。

Revd ラッセル・デューハースト、カーディフ大学カーディフ法律・宗教センター・フェロー

The Ven アラン・T・ペリー、カナダ・アングリカン・チャーチ・セクレタリー・ジェネラル



ACC 常任委員会メンバー各位

「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」第2版の関係者は、改訂された「原則」の発行と最初の受け入れについて、アングリカン諮問評議会の常任委員会に最新情報を報告することが合意された。

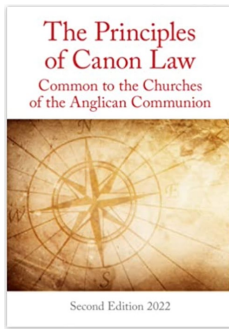
背景

アングリカン・コミュニオンの各教会は自立しており、それぞれ独自の法体系に従って運営されているが、教会法の共通原理があり、これは事実上教会の法律を研究することによって確立されたものである。

2002年のカンタベリーでの会合で大主教は、コミュニオンの教会に共通し、教会法の共通原則として表現されている不文法が第5の「一致のインストルメント」であると理解されることがあることを認め、原則の声明の草案の作成を承認した。この決定は法学者のノーマン・ドウ教授の研究に基づくものであった。法律アドバイザーの国際ネットワークによる広範な研究と作業の後、アングリカン・コミュニオン事務局は2008年、「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」を発行し、これは同年のLambeth Conferenceで出版された。アングリカン諮問評議会は2009年、「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」をすべての管区において研究することを薦めた（決議14.20）。

それ以来「原則」は、事例や学術的な解説で引用され、管区が自らの教憲や教会法を作る際に使われ、そしてエキュメニカルに用いられ、とりわけアングリカン-ローマカトリック・インターナショナル委員会（ARCIC）は「原則」を最近の出版物「*Walking together on the Way*（共に道を歩く）」で推奨している。

第 2 版の作成



教会が規則の策定を続ける中、「原則」を改定する必要性が高まり、その結果第 2 版の計画の準備が整えられた。

第 2 版の作成は、カーディフ大学法律政治学部カーディフ法律・宗教センター（Centre for Law and Religion）、教会法協会（Ecclesiastical Law Society）、およびアングリカン諮問評議会が監督する共同プロジェクトであった。CLR は起草と改訂の作業を監督し、ELS は初期読書グループを組織するとともにスポンサーを提供し、ACC は著作権を保持し、ニール・ヴィガースの調整により整理編集・植字の専門知識を提供した。

初期読書グループ、改訂委員会、そして管区との協議を通じて、コミュニオン全体で 70 人を超える教会法法律家関わった。アオテアロア・ニュージーランド・ポリネシア、オーストラリア、ブルンジ、カナダ、中央アフリカ、セイロン、イングランド、香港、ウェールズ、西アフリカ、スコットランド、南アフリカ、スーダン、アメリカ、西インド諸島を含む管区からインプットを得た。



第 2 版は、2022 年 8 月の Lambeth Conference で、南アフリカ・アングリカン・チャーチのレソト主教 RT Revd ビセンチア・クガベが主催して発表された。出席した主教たちは、それぞれの主教区や管区への「原則」の適用に大きな関心を示した。とりわけカンタベリー大主教におかれましては、序文をいただいたことに感謝申し上げます。

第 2 版の初期受け入れ

第 2 版の方法論は、2022 年 10 月にローマで開催されたアングリカン・ローマ・カトリック教会法法律家会議で発表されたノーマン・ドウとラッセル・デューハーストの論文の主題となった。原則は、会議のアングリカンチームにより常時使われている。エキュメニズムの教会法的側面が大きくなっていることに対して原則はよく対応できており、アングリカン・キリスト教徒が、共通して維持している教会法の根拠を指し示すことに役立っている。

2022 年 10 月にカーディフ大学ロースクールで開催された教会法 LLM（法学修士）30 周年記念会議では、RT Revd クリストファー・ヒル（ARCIC）や Ven アラン・ペリー（カナダ・アングリカン・チャーチ・ジェネラル・セクレタリー）の論文を含め、パネルで原則について議論が行われた。同じ会議で、エキュメニストの Dr ポール・グッドリフが率いるパネルは、2022 年 8 月にカールスルーエで開催された世界教会協議会の第 11 回総会に提出された「キリスト教法の原則」プロジェク

トに対する「原則」の影響を追跡した。LLM コース自体の授業では、原則は、より広いアングリカン・コミュニオンの教会法の授業の中心になっている。

広く報道されている「カトリック教会のための教憲案」は、2022年8月にウィンガード・カトリック研究所が発表したもので、「・・・特に、公式の「アングリカン・コミュニオンの教会に共通する教会法の原則」を考慮に入れている」。

第2版の論文とレビューは、今後数ヶ月以内に *Ecclesiastical Law Journal* (教会法ジャーナル) (ラッセル・デューハースト) と *Journal of Anglican Studies* (アングリカン学ジャーナル) (クリストファー・ヒル) に掲載される予定である。原則を補足するリソースのページは、教会法協会のウェブサイトで利用可能である。委員会の仕事は、2023年1月にローマ・カトリック教会における Synodality (シノダリティ) に関するシノッドの一貫としてローマの聖トマス・アクィナス大学のエキュメニカル研究所で開催された「Listening to the West (西に耳を傾ける)」会議でのラッセル・デューハーストのプレゼンテーションの基礎となった。

まとめ

法律・宗教センター、教会法協会、およびアングリカン諮問評議会にとって、この第2版の作成を協力して行うことは非常に有益な経験となった。第2版の発行から5ヶ月の間にも、学术界やエキュメニカル界における関心と活動は、このプロジェクトが教会に大きな貢献をし続けていることを示すものである。

常任委員会が、コミュニオン全体を通じて「原則」の研究をより広く奨励するための呼びかけまたは決議(2008年になされた決議 14.20 に相当)を検討することを私たちは期待します。

よろしく願いいたします。

ラッセル・デューハースト、教会法の原則改定委員会委員長

ノーマン・ドウ、カーディフ大学カーディフ法律・宗教センター・ディレクター

エリザベス・ウィルソン、教会法協会会長